

①学習成果

今回のプログラムの中で、NUSの生徒とともにセミナーに参加する機会が何度かあったが、やはり彼らは積極的に発言していた。そして、その発言内容もセミナーの中で行われている議論を踏まえた上での核心を突くようなもので、日頃から哲学のトレーニングを受けていることを窺わせるものだった。自分にはまだそのようなスキルがないので、大学院に進学する前に身に着けたいと思った。そのために、これからは議論の中で何が問題になっているのかを意識し、それに対して自分ならどのようなレスポンスができるのかを考えながら哲学書を読んだり授業を聞いたりしようと思った。

②海外での経験

シンガポールの街並みを見て思ったのは、多文化であるということと、まだ発展の可能性を持っているということである。大学内でもそうなのだが、街に出ると様々な民族の人々を見ることができる。そして街もそうした人々を受け入れるように、情報が多言語で表示されており、様々な文化の店や施設があった。どの文化圏から来ても、シンガポールでの生活は快適そうであった。また、都心に行けば高層ビルが立ち並び、シンガポールの経済力を垣間見ることができるが、さらなる発展を目指して、いたるところで開発が進んでいた。

③プログラム内容

今回のプログラムでは8回のセミナーを受講した。それぞれテーマが異なっていて、テーマの幅も広く、アリストテレスやカントなどの古典の解釈から、メタファーや類似のパラドックスなど、現代の分析哲学における問題まで取り扱われたので、広い視野を養うことができたように思う。また後者については、日本ではあまり取り扱われないものだったので、新鮮な気持ちでセミナーに参加できたのと、それらのトピックの言語哲学や論理学への関わりを知ることができて、自分の研究テーマへの関連付けもできたので、大変有意義だったと思う。

④進路への影響

私はこのプログラムに参加する前からアメリカもしくはイギリスの大学院に進学するつもりだったが、NUSへの派遣の結果、進学先としてアジアに目を向けるのも良いかもしれないと思った。理由は2つあり、一つはNUSではアメリカスタイルの教育をしており、学生の様子を見てもそのメリット実現していること、つまり学術的な議論の中で積極的に発言するコミュニケーション力と自分の考えを的確に表現する力が養われていることがわかったこと。もう一つは欧米との交流も盛んなようなので、アジアに進学しても欧米に比べて学術的なビハインドはそれほど大きくはないようだったことである。